

FIGU-Landesgruppe Japan



フィグ・ヤーパン通信

第 46 号

FIGU-JAPAN BERICHT, Nr.46

発行日 2011年5月1日

発行 フィグ・ヤーパン <http://jp.figu.org/>

地球のすべての人間、責任者および為政者へ

私は既に1951年、1958年に2度、1959年、そして1960、70年代と1980年代に世界中の政府、責任者および有名な新聞社と放送局に様々な書簡を送り、絶えず増大する人口過剰に対して直ちに効果的な対策を講じるよう、地球とその人類に差し迫る預言と予告を伝えた。そのようにした理由は、人口過剰の策謀により地球上で気候と自然に途方もない変化が生じ、それらがひどい気候変動と大規模な自然災害を引き起こすからである。また、戦争、革命、独裁および破壊的な自然の暴威によりものすごい数の人間が抑圧され貧困化した祖国から先進工業国に逃れ、それらの国々では重大な政治的、経済的、社会的および反社会的問題、そして宗教問題などが引き起こされることも警告した。それに対して為政者と責任者、その最前線にある官庁およびそれらの上部の政府、ならびに全地球人類、しかしまた多くの学者に責任があることも説明した。しかし残念ながらおよそ60年間というもの、誰も私の言葉に耳を傾けず、ただ笑うか沈黙するだけだった。人口過剰の絶えざる増大に対しても何もなされず、幾重にも存在するすべての問題が人口過剰によって地球全体に急速に広まり、今日の規模にまで墮落した。これらの墮落に対処するために、為政者や責任者やすべての人間が対策を講じて、人口過剰が一層増大するのを止め、それによって人類によって加えられた害を徐々に緩和する可能性を世界と自然に与える、ということにはなかった。既に起こった悪いことは今後ますます悪い形で出現して、もはや後戻りさせるこ

とも停止させることもできない。しかしついに正しい行いがなされるならば、気候と自然は有益にも正常で健全な挙動に戻ることができ、すべての重大な政治的、社会的および反社会的な問題が解決される。しかしそれは正しい行いをしてあらゆる害悪や問題と向き合い、これらに立ち向かうことが条件である。だが実際には無意味で愚かで無益な気候会議を開催して、この上なく馬鹿げたことが話し合わせ決められているのだ。なぜなら本当の現実とその真理が、認識もされなければ理解もされないからである。これには「気候保護」のためと称して絶えず新しい税金を市民に課しては、無意味に浪費していることも含まれる。あらゆる気候破壊と自然破壊の根本問題、そしてその結果生じる原始世界のごとき自然災害と、将来差し迫る特大の暴風雨などは、ひとえに人口過剰が原因であり、その重層的で破壊的な策謀は全自然過程と地球の内的生命を妨げ破壊し、今後はさらにひどくなるだろう。全人類とその建造物や人造湖、そして食料の生産に供する恐るべき数の動物の重量も、地球の内的生命を妨げている。それは地球の内的生命を圧迫する世界中の途方もない重量の圧力により、過大な圧力が大陸プレートに加えられるからであり、その結果プレートの危険な変動が多く発生して、ますます多くの破局的な内陸地震や海底地震や巨大な津波を招く。その一方で内陸地震や海底地震は、火山の噴火やその他の自然災害が引き起こされることにも寄与している。これは思い上がった「専門家」が躍起になって否定する事実であ

るが、火山の爆発は地球内の振動を通して世界中でさらに別の火山の噴火を誘発することもある。また、地球の人間は無分別にも、住宅や原子力発電所やその他多くの建物を少なくとも 70 メートル以上の高台ではなく海岸や湖畔や川岸の付近、さらには地震や洪水の危険のある地域に建設して運営している。そのため住宅、工場、原子力発電所などが被害を受け、破損し、あるいは全壊する。しかもそのような原子力発電所の場合は、回路の故障やその他の種類の要因によって GAU（最大想定事故）またはそれを超えるスーパー GAU が引き起こされる危険があることは、チェルノブイリで、そして今また日本で証明された通りである。自然は放射能で汚染され、人間も放射線で汚染されて重病となり、癌を発病して死亡する。他方、放射線到達区域に入った妊婦は奇形児を生むことが避けられない。これは拒むことのできない事実である。炉心溶融によって破壊された原子力発電所の放射性粒子が空气中に放出され、風の状況に応じて危険な放射線として広い地域を汚染することも同様である。これらの粒子は世界中に拡散し、降水となって地面に達し、こうして多くのものが放射線によって汚染される。このような事態が起こると、世界中で一部の為政者や学者が大言壮語して、自分の国では同じことは起こり得ないとか、安全上すべて見直して最新レベルのものにしたので GAU やスーパー GAU はあり得ないとか主張する。しかしこのような大言壮語は空虚なだけでなく愚かでもあり、実のところ国民をなだめすかして、無責任な為政者や学者が自分の怪しげな体面を保つのに役立つにすぎない。新聞社、テレビ、ラジオなどで無意味なことをしゃべり散らしている為政者は、本当は物理について、とりわけ原子力技術について何も知らないも同然で、無知をくだらない講釈で覆い隠そうとしているのである。

もちろん人類は電力を必要とする。今日の技術の大部分は電力に依拠しているからである。そのため電気というエネルギーを生産する設備も必要であるが、現在大量の需要は原子力発電所でしか満たせないのが実情である。しかしこれは、そのような原子力発電所が安全に関して事故の発生があり得ないほどに完璧で成熟し、または製造できることを意味するものではない。というのもそれには地球の原子

力技術はまだ十分ではなく、今後も決して十分とはなり得ないからである。しかし電力を生産するための新しいクリーンなエネルギー技術が発明されて実用化されるまでは、残念ながら原子力発電所はこれからも不可避である。それゆえ石炭発電所、ガス発電所、石油発電所などのように CO₂ を大気にまき散らすことのないクリーンな電力生産技術を考案することが求められる。少なくとも新しいクリーンなエネルギー生産の可能性が発明または開発されるまで、クリーンな発電所に残された手段は事実上風力、水力および太陽光だけである。今後クリーンなエネルギー回収技術として追求されるのは、地中のきわめて深い場所の地熱を大規模な熱発電所で利用することだ。なぜならそれによって地球のすべてのエネルギー問題は電気に関しては解決されると見られるからである。それにより道路交通および水上交通はすべて電力によって駆動され、有害な排出が大気や環境に達することはなくなる。内燃機関を使用している自動車やあらゆる種類の機械などは、ついに姿を消すだろう。だが「賢い」エネルギー学者やすべての責任ある為政者などが今日に至ってもなおこの解決に思い至らないのか、実に不思議である。地中の熱を利用できるような巨大な熱発電所によって、実際に地球人類のすべてのエネルギー問題は解決でき、有害物質を産生することも、GAU やスーパー GAU の危険を恐れる必要もなからう。

しかし約 5 億 2900 万人を上回るべきではない地球の人口の途方もない過剰は、自然界にひどくなる一方の災害を招くばかりでなく、人間自身の間にもますます多くの墮落した策謀を生み出す。たとえばあらゆる種類の戦争行為がますます頻発するようになり、これにはジェノサイドもしくは大量虐殺も含まれる。失業率も高くなる。労働プロセスの技術化により人間の労働力は次第に必要ななくなってくるからである。しかしまたあらゆる種類の人間の悪習、たとえば麻薬中毒、犯罪や犯行も多くなり、増え続けている飲料水や食料の欠乏も悪化の一途をたどり、次第にコントロールできなくなる。同様のことは伝染病や疾患の発生や良好な人間関係の歪みなどの害悪にも当てはまり、家族関係もますます困難で悪くなっていく。なぜなら子供たちはもはや正しい仕方では価値ある人間に育てられず、墮落した反社会的な

野蛮人となり、不安や恐怖や暴力を広めることもためらわないからである。まさにこの点において、人間は過度な人口過剰の中ですます無関心、非人間的になり、憎しみと報復と復讐^{ふくしゅう}の念に満ちるのである。こうして死刑や戦争を求めて叫び、信仰の異なる者を誹謗^{ひぼう}する一方で、邪悪なテロ、自爆攻撃、人種差別、自殺などがますます急激に広まる。そのため何よりも世界中の政府、その他の責任者はこうしたすべての墮落を止めて阻止し、ついにこの世界から駆逐することが求められている。しかし世界の為政者や責任者が上記の観点で何事かをなすことが少なれば少ないほど、あらゆる害悪は大きく広がり、地球の人間を支配するとともに、気候と自然にも影響を与える。

あらゆる害悪に適切に対処し、時間をかけてそれらをコントロールして消滅させるのは、為政者と責任者だけでなく、個々の人間と全人類の責任でもある。これはあらゆる形態の拷問と死刑を廃止し、戦争が現実にならないように萌芽のうちに摘み取ることも当てはまる。そしてもし国家権力者が戦争をたくらんだり、拷問に等しい死刑に賛同したり、その他何らかの不正な振る舞いをしたなら、そのような輩は直ちに解任して、創造と自然の法則と勸告が留意され遵守されることを保証する人物と置き換えるべきである。軍隊は自国を防衛する目的のためには正当であるが、決して外国を攻撃したり、外国と戦争をしたりしてはならない。したがってまたいかなる国の軍隊も戦争をしている他の国を援助したり、それらの戦闘集団に味方したりすることは許されない。軍隊は自国を防衛する目的のためにのみ存続できるのであり、決して自国の利害に照らして外国に侵攻し、自分の利益のためにその国で戦争をしてはならない。すなわち世界の為政者と責任者は、これに関するあらゆる弊害や人間性に反すること、たとえば死刑、拷問、人種主義、宗教的憎悪および戦争などを廃絶することに意を用いなければならない。軍隊は数十万または数百万の兵士を擁する国際的な平和戦闘部隊としてのみ存在し、世界のどこかの国で戦争行為が勃発したら、直ちに介入してあらゆる戦争行為を停止させるべきである。既にこの事実だけでも、国々において戦争の策謀を起こさせないようにするのに十分である。なぜなら数十万、数

百万という国際的な平和戦闘部隊として編成された世界安全部隊の巨大な戦力が即座に介入して戦争行為を萌芽のうちに摘み取り、終息させるであろうことがわかっているからである。

しかし何にもまして緊急に必要なことは、世界中でコントロールされた出産規制によって人口過剰がこれ以上増大するのを劇的に止めることである。というのも地球上に人間が多く存在すればするほど、人間自身の間ですべての問題がますます大きく拡大するからである。気候破壊と自然破壊に関してもそうであり、したがってどんな問題も残らず、長引けば長引くほど、ますます解決困難になるのである。

私は既に1951年、1958、59年、そして1970年代と1980年代にも、官庁と政府の責任者および広く地球の人間に預言と予告と警告の言葉を語ったが、聞き届けられなかった。1939年から1945年まで続き、およそ6200万人の命を奪い、多くの国々で途方もない苦しみと困窮、苦痛と破壊を与えた第二次世界大戦が不名誉な終結を迎えてから66年になる。数十万の人間を殺害し、都市を破壊するためには原子力さえ使用された。アメリカ合衆国の無責任で犯罪的な行為により、日本の広島と長崎が原爆で破壊されたのである。だが残念ながらこれら全部あわせても、あらゆる恐怖、大量殺人、戦争およびテロ行為の終わりではなかった。すべての国民は利口にならず、それ以降も同じ悪質で破壊的な枠の中を進んだからである。それどころかそれ以後はすべてが一層ひどくなった。というのは絶えず急増し続けた人類が、自然と気候を計り知れない規模で破壊したからである。これに対して為政者は特別の責任において何らかの対策を講じるべきであった。だが、世界の至るところで権力欲に駆られた政府は何かを良い方に変える能力をまったく持っておらず、国民自身も過ちを犯した為政者を解任して脱兎^{だつと}のごとく遁走^{とんそう}させ、愚鈍ではない人々と入れ替えることができなかった。既に1950年代に私は次のように書いた。

「いかなる国においても基本的に国民が為政者を選ぶのであるが、残念ながらたいてい誤った為政者を選出する。彼らは最初は立派な約束をするが、権

力の座に着くといきなり戦争やテロを始め、国民を嘘と偽りで呪縛する。そのため国民はお上に従属し、本当の真理を見誤る。だが、それは将来悪い結果をもたらす。というのも世界中で国家権力者が、もし国民が抵抗しなければ、ますます多くの人々を戦争やテロや憎悪に巻き込み、ついには世界全体が制御不能になるからである。それは遠い先のことではない。なぜなら既にこの恐るべき事態は盛んに煙を出してくすぶっており、数年後には炎となって燃え上がるだろうから。まだこの事態を止める時間があることは、全地球人類と地球とその自然に対して預言されている。今でも国民と政府、官庁、学問、軍隊、その他すべての担当機関の全責任者が最大限の努力を払って、あらゆる害悪を停止させ、何もかも肯定的に変化させるならば、効果的な対策によってすべてを良い方向へ変えることができる。もしこれが行われなければ、予期しない恐怖が差し迫る。その時は超大国アメリカが、あらゆる点で最前線に立って死と破壊と絶滅の剣を振るうだろう。そしてイスラエルや、見せかけの友情からそれぞれの国民の理性的な部分の意志に反して、アメリカにすり寄るすべての国々もアメリカに引きずられてついて行くだろう。

数千の死者や数十万もの被殺害者を生み出す戦争とテロ、破壊と絶滅が未来を特徴付けるだけでなく、途方もない人口過剰の罪によりあらゆる自然法則は大混乱をきたすだろう。人間の罪によって異常気象が増えてその猛威を増し、^{ひょう}雹嵐や吹雪や豪雨が発生するとともに、オゾン層も破壊されて非常に危険な状態となろう。途方もない洪水がますます頻繁に起こり長く続くだろう。なぜなら人口過剰によって水辺の森や草地は住宅地に造成され、豪雨によって発生した鉄砲水が、人の住んでいない緑地に逃げることができなくなり人家に押し寄せるからである。山崩れや雪崩、しかしまた内陸地震や海底地震、そしてあらゆる種類の嵐が急激に増えよう。暴風や台風、ハリケーンや竜巻はその数を増し、ますます巨大で破壊的になるだろう。これらも人口過剰が原因となっている。というのも人口過剰は極めて否定的な影響を及ぼし、それによって不自然な気候変動を引き起こすからである。それらは今日から10年足らずのうちに世界に対して非常に不利に作用し始めるだ

ろう。都市や村落の途方もない数量と重量が地球の内部構造に与える負担は増え続け、それによって地殻構造が損なわれる。その結果、いやおうなくますます多くの地殻構造の変動と断層を招き、世界中で巨大地震が引き起こされ、死者の数もしまいには数十万、数百万の規模に達するだろう。これらの地震は地球の全火山活動にも影響を与え、したがって世界中で(2011年のビリー注：振動によって)幾重にもつながっている火山もますます頻繁に、破壊的に活動する。これもまた多くの人間の命を奪う。それは特に分別なく火山の近くに住宅を立てた地域においてそうであるが、同じことは海岸、大河や湖にも該当し、岸のすぐ近くに建設されている所では、巨大な暴風津波や潮津波に襲われて非常に多くの人間の命が奪われる。だが、それだけではすまない。絶えず増大する人口過剰により早くも50年後(2011年のビリー注：1950年代から起算して)60億以上に達するが、予告されている通り、数多くの途方もない解決不可能な問題が出現するだろう。飢餓が増大し、根絶されたと信じられていた古い疾患が再び発生しよう。先進工業国からのマストツーリズムにより、これらの国々には世界中からやってくる経済難民で溢れかえろう。途方もない政治難民問題も解決不能となろう。80年代末には好景気が崩れて、世界中で失業がかつてないほどすさまじい規模で広がり、そのために失業者による犯罪が増加する。いわゆる第三世界からやってくる犯罪集団が先進国にはびこり、犯行を働く時に人を殺すことさえもためらわない。国家犯罪やテロリストの過激主義やネオナチズムなども計り知れないほど増える。売春も、予告されているように、信じがたい形態を取り、子供でさえもその餌食となっていることが世界中で露見する。数十年後には売春は「まともな」職業となり、官庁から公認されて納税義務も課せられるだろう。既に発明されたテレビほどの家庭でも普通に備えるだろう。コンピュータ技術もそうなり、既にアメリカ、ドイツ、日本およびソ連ではそのために懸命に努力している。テレビとコンピュータは重要な情報媒体になるが、公然たる売春広告の有力な形態ともなるだろう。

人間は今後50年間(2011年のビリー注：1950年代から起算)に思考と感情が冷え、そのために人間

関係が花開くことは稀になり、特定の目的にだけ規定されるようになるだろう。まことの愛は珍しくなり、結婚の多くは名声と金銭を伴う地位を手に入れるためだけに行われる。結果、多くの結婚は長続きせず、家族は崩壊し、子孫は性的に虐待されて、反社会的になり非行化する。人々、特に若者は、早くも50年代の終わりには麻薬に依存する生活を送るようになり、80年代が近づくと麻薬問題が急増しよう。快樂だけが意味を持つようになり、音楽界は破壊的で不調和な響きに刻印されよう。それによって心は損なわれ、このような破壊的な種類の音楽に順応する人間の全挙動は否定的なものに陥るだろう。

教派主義の領域では自称神に選ばれた者がますます輩出して、自分たちの信者を金銭的に搾取し、服従させ、時には自殺に追いやりもする。これら無責任な者たちは彼らの信心深い信奉者によって裕福になるために時間を利用する。特に彼らは千年紀の変わり目になると、西暦2000年に世界は滅びると主張して不安と恐怖を広めるだろう。そして地球外生命体を選ばれた者を救うなどという嘘さえ平気でまき散らすだろう。もちろん救われるのは教祖に多額の金をわたす者に限られる。

増大する人口過剰はこのほかにも多くのことをもたらすが、それは根本的に将来のあらゆる害悪の本当の原因である。なぜなら人口過剰が増大すれば増大するほど、そこから生じる問題も巨大になるからである。新しい伝染病が発生し、早くも80年代には数百万の人間の命を奪うだろう。それらの伝染病は動物から人間に感染するが、遠い将来には伝染病は宇宙から地球に持ち込まれるだろう。しかし伝染病が動物に起因して人間に移るということを、責任者たちは完全に否定して、本当の真理に通じている者を嘘つきと中傷するだろう。こうして世界と人類が破滅するならば、地球の人間自身がその張本人であり、人間は人口過剰の数をますます押し上げるこ

とによって本当の原因を生み出しているのである。それゆえ来たるべき途方もない問題や弊害を規定するのは何らかの宗教や教派の仮想の神ではなく、ひとえに地球の人間なのである。人間はその狂気において自分を宇宙で最も高く強大な存在、およそ創造が到達できるよりはるかに高い存在であると思いつむ。人間はその罪により、人口過剰により、思い上がりにより、そして無分別と不遜により、自然のあらゆる諸力に挑戦する。自然は地球とともに抵抗し、地球人の墮落した策謀に対して自分を守る。こうして地球上で自然は地球そのものと一緒に荒れ狂う。なぜなら人間は自然力と生命の全プロセスを妨害し破壊するからである。

これらすべてのことを私が言わなければならない。それらは預言であると同時に予告された真理だからである。私のこれらの言葉を聞いたあなたがたは皆、言われたことをよく考え、そこから正しい結論を引き出して、正しく行動する勇氣を持ちなさい。なぜなら、まだそうする時間があるからだ。だが、その時間は指の間からこぼれ落ち始めている。これらの預言と予告を熟慮し、より良く変わるように行動しなさい。すべてのことをあらゆる媒体で教示することによって地球のすべての人間に対して公表して、肯定的な方向への変化および転化を達成し、地球と全人類をあらゆる不遇、あらゆる害悪、あらゆる墮落、多くの死と破壊、そして絶滅への前進から守りなさい。私の手紙を受け取ったあなたがたは皆、地球と人類を私があなたがたに開示したすべてのものから守る可能性と力と責任を持っている。躊躇せず、すぐに行動しなさい。時間は迫っているのだから。もし直ちに行動しなければ、預言が実現した時には、あなたがたも、将来予言の実現を引き起こす者たちと同様にそれに対して責任を負うのである。」

2011年3月13日

〈ビリー〉エドゥアルト・アルベルト・マイヤー

第516回コンタクト 2011年3月14日月曜日 13時34分

ビリー：ここでもう1つ質問がある。君たちは予告をしなくなった。なぜなら予告はまったく意味をなさず、地球人は耳を傾けようとせず、旧態依然と

した枠の中であらゆる害悪を播き散らし続け、ますます多くの大災害を誘発しているからだ。このたび日本ではマグニチュード9の巨大な海底地震が起こ

り、それによって発生した津波が巨大災害をもたらす、すべての村落や都市をあっさりと一掃して地面に変えてしまった。その際に幾つかの原子炉も被災した。その結果、放射線が放出されて、人間を含む多くのものを汚染し、人命を奪うことは避けられない。放射線が遠方まで運ばれ、危険区域から遠く離れた場所でも土地や植物や生物を汚染する。放射線は日本の北部や南部だけでなく中国にも届き、さらに太平洋を経てアメリカ合衆国にまで達し、最後には風の状況いかんでは世界中至るところに到達する。こうして再び何千という人間が命を失うことは間違いない。津波がもたらした原始世界のごとき荒廃の前に、それ以外のことはあり得ないのだ。死者は数十人とか数百人にすぎないと言われているが、これは絶対真実ではない。これに関する私の質問は、この推測は正しいか、また核放射線によってさらに多くの人間が殺され、または癌になって命を失うだろうかということだ。地球上に建設され運転されているような原子力発電所や原子炉の安全性についても、君が何と言うか知りたい。君は既に25年ほど前にチェルノブイリ災害が起きた時、個人的な会話の中で、このような原子力生産設備にとって実効的な安全性は存在しないし、地球の人間はこれに関して絶対に安全と言えるような原子力設備を作り出すことも絶対できないと言った。ここで言うべきは、我々の地質学者や、海底地震と内陸地震に関係のあるすべての者が、いまだに海底地震と内陸地震を区別していないが、これらは異なる2つの地震形態だということだ。これについて私や他のすべての素人にも理解できるように簡単な言葉で説明してもらえないだろうか。

プター :

15. 君が言っていることはまったく正しい。
16. 海底地震は海底の断層と水の運動を引き起こし、それが1回または複数回の津波を形成して内陸地震よりもはるかに激しい破壊を引き起こす。内陸地震の場合、破壊は震動、地中や地面の亀裂、横滑り断層などによるものに限られている。
17. つまり海底地震は内陸地震とはまったく形態が異なるのだ。
18. フロレーナとエンヤーナは、日本の被災地域で命を失った人々に何が起きたかを現場で調査した。それによると数千人が助かる見こみもなく泥と瓦礫に埋もれ、あるいは巨大な引き波によって海中に引きずり込まれた。
19. 彼らにとっては少数の例外を除いてどんな救助も間に合わない。
20. 君が原子力発電所について語ったことに付け加えると、初めてこの種の発電所が建設された当初から安全性はまったく確保されず、きわめて無責任に扱われてきた。
21. 原子力発電所にとって絶対的な安全は決してあり得ないことは、我々自身の経験から知っている。それは我々の先祖が同様に安全でないエネルギー回収技術を利用した時のことであるが、その技術は今日の地球の原子力技術に比べれば何倍も進歩していた。
22. そのような原子力発電所はしばしば少なからぬ原子炉を備えており、世界中で類を見ない核災害が起こるまで運転され続けた。その時予想しない宇宙からの外的影響の結果として誤作動により非常に多数の原子炉が爆発して4800万人以上の人間の命を奪ったのだ。
23. 同様に類似の規模の事故が地球上でも起こる可能性がある。事故もしくは大事故が起こらないように原子炉を制御することは決してできないからだ。
24. 実際、遅かれ早かれ必ず様々な影響が生じて大小の惨事を招くだろう。
25. そのようなことが起こらないとすれば、それは幸運以外の何ものでもない。
26. 我々の先祖も原子炉が爆発して世界中に大惨事を引き起こし、広大な領域が核放射線により非常に長期にわたり汚染された後、ようやく絶対的な安全を保証できる新しいエネルギー回収技術が作り出されたのだ。
27. 原子力発電所技術について言えば、何らかの影響によって危険な障害が発生するのを防止できる保証はない。なぜならこれに関しては、破壊的な誤作動とそれにより大惨事の発生につながる要因があまりに多く存在するからである。
28. 考えられる最大の危険は、思慮を欠いた技術的な不完全性という点で予測できない人間のミスと、太陽の生成物から出る危険性の高い破壊的な放射線

などの宇宙的要因である。

29. 隕石もまた原子力発電所と原子炉の破壊を誘発し得る要因である。

30. すなわち内陸地震と海底地震だけでなく、今述べた可能性、設備の誤作動、そして何よりも核燃料そのものによる予測のつかない暴走も考慮しなければならない。核燃料はそれらの廃棄生成物と同様に、常に危険を意味しているのだ。

31. これらすべての他に、冷却材が核燃焼の影響を受けてある化学変化を起こし機能しなくなることもあるが、これは地球の原子力の運営者や専門家にはまったく知られていない。

32. たとえ冷却に水を使用しても、水が安定性を失って蒸気となり、途方もない爆発力を発揮することがあるが、同じことが純粋に化学的な冷却材にも当てはまる。

33. もし事故が起きたら、最良の冷却システムでさえ絶対安全に燃料を冷却できる保証はない。

34. しかしこれ以外にも危険な要因があるが考慮されていない。それらは原子物理学者などには知られていないからである。それというのも彼らは十分広い視野で考えず、危険をはらんでいる他の原因や形態を探求しないからだ。

35. それゆえいつでも予期しない喜ばしくないこと、危険なこと、破壊的なこと、それどころか大惨事が起こり得るのである。

36. 地球上の原子力技術の水準が現在よりはるかに高かったとしても、原子力発電所と原子炉の危険性は変わらないだろう。どのみち地球の核技術では認識されていない多くの事柄について予測がつかないからだ。

37. 危険性はそれだけではない。最大の危険は、放射能が漏れ出して多くのものを非常に長い期間、それどころか数百年、さらには数千年にわたって汚染することである。しかも放射線は多量であれ少量であれすべてを汚染するのだ。

38. 原子力発電所によってエネルギーを回収することは根本的に無責任であり、したがって厳しく禁止されるべきである。

39. これはまさに国民に電力を供給するための大規模な原子力発電所のみならず、潜水艦などに搭載された小型の原子力発電所および原子炉にも当てはま

る。

ビリー：非常に明解に言ってくれた。だが、地球人は原子力エネルギーの狂気に駆られて、世界中で既に何百基もの原子力発電所と原子炉を建造、運転している。今これらが突然停止したら、世界中で深刻なエネルギー不足が生じるだろう。実際、再生可能エネルギーで駆動されている発電所は、すべてのエネルギー需要を賄うにはあまりに少ない。それゆえまず、すべての原子力発電所に取って代わることができる他の発電所を考え出して建造しなければならない。だがそれにはまだ長い時間がかかる。なぜなら担当の学者や専門家はあまりに愚かなため、絶対に有害物質を出さない完全に安全なエネルギー発電所を開発できないからだ。君たちの先祖はそれを熱発電所で行ったというのを、君の娘のセムヤーセから聞いたことがある。彼女の説明によると、地中深くから熱を汲みあげて巨大な熱発電所を運転したが、それによって君たちの惑星の全エネルギー需要をまかなうことができた。そのあとで有害物質を出さない別のエネルギー生産技術も開発されたが、危険な廃棄物はまったく発生せず、GAUもスーパーGAUもなかった。そのような事故は君たちの初期の原子力発電所で生じたが、この地球上の原子力発電所でも繰り返し起こることが避けられない。これらの他に小規模な原子力発電所事故も起きているが世間には公表されていない。世間に知られるのは、現在の日本や25年前のチェルノブイリのように、比較的大規模な惨事が起きた時だけである。そして事故もしくは大事故もしくは原子力発電所災害が起こると、国民は原子力発電所の責任者と政府によって徹底的にだまされる。さらにそうした機会をとらえて世界中の政府は大言壮語し、偽善的な大口をたたき、リスクと安全対策の点検や原子力発電所の稼働停止などを声高に叫ぶ。一方では臆病な不安からそうするのだが、他方では賢く卑劣で偽善的にも次の選挙に向けて国民の間で点数を稼ぐためにそうする。彼らは再びその役職に選ばれたいと願っているからだ。これまで常にどんな大事故も、どんな惨事も特定の為政者や経済界の巨頭、大企業や一般に多くの人間によって自分の効用と利益のためにとことん利用されてきた。まさに個人的

な利点さえ得られるならば、昔から破廉恥にも死体さえ踏み越えて進んできた。もちろん国民はこれらの狼どもに合わせて遠吠えするが、惨事が過ぎ去り災厄がおさまって、そこから個人の利益が引き出されてしまうと、すべてがあつという間に忘れ去られる。この昔からのやり方はこれからもまったく変わることなく続くだろう。しかしまさにそれによって、それぞれの為政者の汚らわしい大口がまったく無意味であり、嘘以外の何ものでもなかったことが明らかとなるのだ。あらゆる種類の原子力発電所による核技術の利用や核兵器などに反対する為政者や国民は、原子力賛成派から死ぬほど罵られ、あるいは失脚させられて、もはや正当な思考をもって妨害できないようにされる。しかし原子力ロビーには原子力発電所の運営者や原子力発電所を声高に推進する為政者だけでなく、原子力技術の危険性について何も知らない多くの国民も属している。ここに挙げた者たちは、たとえば太陽が突然狂い出して地球に途方もない放射線を放ち、それによってすべての電子機器、装置、発電機、ポンプ、機械などが突然止まって原子炉の冷却が麻痺する恐れがあることも知らない。そのようなことが起これば、原子炉が吹き飛び、世界中を巻き込んだ核大惨事が起こる。原子力発電所では原子炉冷却システムは自家発電機能を持っていると思われているが、太陽の途方もない放射線によってこれらも故障するというのは、君がかつて言

った通りだ。

プター：

40. それは実際にあり得る。

ビリー：だがそれについては原子力発電所の運営者も、原子物理学者も、為政者や国民も考えない。

プター：

41. 実際その通りだ。それどころか彼らは無知と無責任と大言壮語で、今挙げたすべての可能性を否定する。しかし原子炉が爆発して広大な地域が非常に長期にわたり放射能汚染されれば、様々な規模の災害が誘発されよう。

42. 君が言うようにチェルノブイリがそうだったし、日本でもそうなるだろう。

43. 世界中ですべての原子力発電所と原子炉の運転を止めて解体しなければ、地球全体と人類を巻き込んだ世界規模の原子力大惨事が起こり、数百万の人間の命を奪うことになるのは時間の問題である。

ビリー：彼らはまだ火で指を火傷したことの無い無知な子供のように火遊びをしているのだ。

プター：

44. そう、まさにそのたとえがぴったりだ。

第 517 回 コンタクト 2011 年 3 月 19 日 土曜日 14 時 45 分

ビリー：日本の海底地震による津波大惨事について、3月11日金曜日6時45分（中央ヨーロッパ時間）、日本の沿岸でマグニチュード9.0という大地震が発生した。この地震によって引き起こされた巨大な津波が本州の海岸に押し寄せた。最大の被害を受けたのは東北地方の600キロメートルの海岸沿いにある3県（福島、岩手、宮城）だ。福島では原子炉6基を有する原子力発電所が大きな被害を受けた。これについてはスーパーGAUもあり得ると言われている。だが私はそれはもう既に起こっており、今やウルトラスーパーGAUが差し迫っていると考えている。そしてまた原子炉から出る放射線や放射能汚染水が地域の大部分だけでなく、おそらく列島

全体と海も汚染し、さらには放出された放射性粒子は風に運ばれて世界中に、したがってヨーロッパにも到達するだろう。

プター：

10. 君の推測は正しい。いわゆるスーパーGAUは、危険なプルトニウムが露出した原子炉3号機から非常に危険度の高い放射線が広範囲に放出された時、既に起こった。その放射線は広い地域を覆うだけでなく海中にも広がり、海水や魚、その他の水生動物を激しく強く汚染し、その結果それらの多くが死滅する。

11. したがって今挙げたレベルの災害がまだ起きて

いないと言うのは、責任者の意図的な嘘である。

12. 君はウルTRASーパーGAUが差し迫っていると言うが、それも時間の問題にすぎないだろう。

13. 原子炉を冷却し、あるいは何とかすべてのことを阻止しようとして講じられる対策は、無益な自暴自棄の行為にすぎない。

14. ここで留意すべきは、破れかぶれになって海水を冷却に使用していることも大変な危険性をはらんでいる点だ。なぜなら海水の塩分は冷却を損ねる危険な作用を生み出すからだ。

15. また風で至るところに運ばれる放射性粒子は、実際に地球全体に広がる。

16. そのような放射性粒子が既に2日前の2011年3月17日、つまり先週木曜日にヨーロッパ北部と中央ヨーロッパで検出された。

ビリー：それにはスイスも含まれるのだね？

プター：

17. その通りだ。そして、今のところわずかしか発生していない放射性粒子が、次第に増えていくものと思われる。

ビリー：その恐れはあるだろう。しかし私が関心を持っているのは、放射能で汚染された地域で放射線を取り除いて除染する可能性はどの程度あるのか、あるいはそんなことがおよそ可能なのかということだ。とりわけ私が懸念しているのはプルトニウムによる汚染である。技術的に最も重要なプルトニウム同位体 ^{239}Pu は、いわゆるアルファ放射体で半減期は24110年だ。プルトニウムは銀白色の重金属であり、とりわけ原子炉もしくは増殖炉において生産される。自然界ではウラン鉱石中に極微量含まれており、天然ウランから発生する。プルトニウムはアルファ放射線作用が強く、人間その他の生物の骨中に沈着する傾向があるため、放射能が全身に作用する。プルトニウムは知られている中で最も危険な毒物に属する。プルトニウム粉塵を吸入するとたいい肺癌を引き起こし、数マイクログラムの作用でも致命的な放射線障害を招くことがある。少なくともこれらは私の知る限り最も重要な事実である。プルトニウムにはこの他にも2つの半減期があるが、と

にかく私も原子物理学者ではない。

プター：

18. 君の言うことはもちろん正しい。

19. 君の質問に対して言えるのは、放射線を除去できる可能性はまったくないということだけだ。

20. これに関して効果のある方法も知らない。

21. せいぜい放射線がそれぞれ半分に減る半減期を考慮できるだけだ。

ビリー：24110年後にはまだ放射性物質の半分が残っており、さらにその24110年後にはまた半分が残っているというように続く。実効的な半減期は体内の放射性物質の放射線作用がそれぞれ半分に減少する時間を表している。この減少は放射性崩壊と体内からの排出によって起こる。プルトニウムはアクチノイドおよび超ウランに属する放射性化学元素である。ほとんどが人工的に製造される不安定な同位体の種類は多く、現在15以上知られている。その中で最も寿命が長いのが ^{244}Pu で半減期は8260万年、これよりやや短いのは半減期は ^{242}Pu で376300年である。このほかにも百科事典には次のような半減期が載っていた。

種類	半減期
トリウム 219	1.05 マイクロ秒
窒素	9.96 分
カリウム	12.36 時間
ヨウ素 131	8.02 日
ストロンチウム 90	28.78 年
セシウム 137	37.17 年
ラジウム 226	1600 年
炭素	5730 年
^{234}U (ウラン)	2.46×10^5 年
^{235}U	7.04×10^8 年
^{238}U	4.47×10^9 年

プター：

22. これもすべて正しく、何も付け加えることはない。

ビリー：これでだいたい全部だが、……

第 518 回コンタクト 2011 年 3 月 26 日土曜日 15 時 03 分

ビリー：…… さっそく日本の原子力災害について君に尋ねたいことがある。何か新しいことは起っているだろうか？ もしそうなら、素人にも理解できるように話してもらいたい。

プター： よろしい。我々が前回 3 月 14 日に会見した後、福島原子力発電所でさらに 2 基の原子炉が故障して放射線が放出された。放射線に汚染された水も大量に海に流出した。炉心溶融は今も続いており、大量の放射線を発生するプルトニウムが、マグマを形成しながら地面に向かって沈降している。さらに広大な地域が汚染されており、そこからは基本的に避難しなければならない。これが行われていないのは犯罪的である。原子力発電所の運営者が原子炉内と周辺の大惨事に対処しようとして現在行っていることは自暴自棄の行動にすぎず、取るに足る効果を上げない。さらに言うと、日本の国民は災害の実際の規模について本当のことを知らず、一部分しか知らされないで些事に見せかけられているのだ。

ビリー： 国民は事態の真相に関して徹底的にだまさ

れ、すべてが過小評価されている。部分的な炉心溶融が起っているだけだとも言われているが、それが嘘なのは明らかである。いったん炉心溶融が起ったら部分的ではすまないからだ。大きい海底地震が今後も続き、もっとひどい災害が起り得ると言うことも言われていない。

プター： 炉心溶融について君が言うのは正しい。実際、ある種の状況のもとでははるかに悪い結果が起り得る。そうした可能性も考慮しなければならないが、原子力発電所の運営者も政府もそれをしていない。マグニチュード 9 の海底地震が発生して海底に断層が形成された場所だけでも、環太平洋火山帯から別の予測できない危険が差し迫っている。絶えず続くマグニチュード 5～7 の強い地震は無害な先触れにはほかならない。

ビリー： 今後さらにいろいろな大災害が予想されるということだね。

プター： その通りだ。

フィグ・ヤーパンからのお知らせ

□ フィグ・ヤーパン通信第 46 号について □

フィグ・ヤーパン通信第 46 号は、ビリーからの重要なメッセージや、東日本大震災と原子力発電所の事故に関して行われた最新のコンタクト記録を収録した特別号です。事態の重要性に鑑み、発行を 1 か月遅らせて全量を翻訳し、通常より 2 ページ増量して掲載致しました。

□ 被災地の読者の皆様へ □

フィグ・ヤーパンでは、東日本大震災によって書籍類を損失した読者を対象に、これまでお求めになられたものと同等の書籍類を無償でお送りすることと致しました。平成 23 年度末まで受け付けておりますので、該当する被災地の読者の方がいらっしゃいましたら、フィグ・ヤーパンまでご連絡下さい。

□ 第 10 回全国読者集会の延期について □

6 月 19 日に予定されておりました第 10 回全国読者集会は、東日本大震災や原発事故の影響により、延期させていただきました事になりました。楽しみにされておられた読者の皆様にはご迷惑をおかけ致します。

なお、夏の電力需要増大による計画停電の再開等も考

慮しながら、秋以降に改めて開催する予定です。開催日が決まり次第、ホームページ又はフィグ・ヤーパン通信でご案内させていただきます。

フィグ・ヤーパン通信 第 46 号 (無料)

発行日 2011 年 5 月 1 日
 発行 フィグ・ヤーパン (FIGU-Landesgruppe JAPAN)
 住所 〒192-0916
 東京都八王子市みなみ野 3-11-2-305
 電話 042 (635) 3741
 FAX 042 (637) 1524
 URL <http://jp.figu.org/>
 E-mail info@jp.figu.org
 郵便振替 00160-4-655758
 加入者名 FIGU-JAPAN

本書の全部または一部を無断で複製すること、著作権法上の例外を除き禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、フィグ・ヤーパンにご連絡ください。

Copyright (c) 2011 by FIGU-Landesgruppe JAPAN. All rights reserved.